

聖公会生野センターとの出会い



聖公会生野センター
30周年記念感謝礼拝
シンポジウム

2022年10月10日

井田 泉

1

聖公会生野センター30周年、尊いお働きに感謝

1989年 「出会い in 生野」

主催・大阪教区宣教部（参加70名余）

後援・ガブリエル地域活動センター
日韓協働委員会
日本聖徒アンデレ同胞会

1992年 聖公会生野センター設立
建物 竣工式

（聖ガブリエル教会・こひつじ乳児保育園
と三者協働）



聖公会生野センターの正式設立の3年前、1989年9月に「出会い in 生野」という全国レベルの研修会が行われました。聖公会生野センターの活動の一つの基礎となったものです。

聖ガブリエル牧師（当時）の小崎清信司祭が、「聖ガブリエル教会の歩み」について話してくださいました。

「出会い in 生野」
での講演
1989

講師とスタッフの名簿

氏名	所属	氏名	所属
張 聖子	大分県立看護学校	田中 隆	大分県立看護学校
張 聖子	大分県立看護学校	田中 隆	大分県立看護学校
張 聖子	大分県立看護学校	田中 隆	大分県立看護学校



現在のセンターの総主事、呉光現（オ・クァンヒョン）さんが講演してくださいました。33年前です。左に小さく写っているのは、講師とスタッフの名簿。講師の一番上は張聖子（チャン・ソンジャ）さん。身世打令（シンセタリョン）の冒頭でこう語られました。

「私の父・張本栄は10歳で自分の国を失い、私は10歳で教会を失いました。」

「国を失った」とは1910年の韓国併合（日本による植民地支配）、「教会を失った」とは1941年にお父さんの張先生が特高に引っぱられ、翌年教会が閉鎖に追い込まれたことです。

チャンジュンサン

張準相（張本栄）師のこと

聖ガブリエル教会（聖公会生野センターの母体）創立者

1900年 朝鮮忠清南道に生まれる
1916年 メソジスト教会(監理教)で受洗
1918年 立教大学文学部予科に入学

1919年 三・一独立運動に参加
1923年 堅信（大阪聖パウロ教会にて）
関東大震災を経験（立教大学学生時代）
朝鮮人大虐殺の恐怖の中を東京脱出
奈良基督教会に吉村大次郎司祭を頼る

吉村司祭をとおして張準相青年はキリストの愛を知る。
これを、苦難の中にある同胞に伝えたいと願い
伝道者として献身 → 福岡神学校へ



4

張聖子さんの父・張準相（チャン・ジュンサン）氏は、1923年、立教大学の学生のとときに関東大震災に遭い、朝鮮人虐殺の危険と恐怖の中を脱出。奈良基督教会の吉村司祭に助けられました。吉村司祭は日本刀を手にして、「あなたを殺しに来る者があれば、私を先に殺せと言う」と言って張氏をかばったとのことです。張氏は、苦難のうちにある同胞に福音を伝えたいと献身を決意、福岡神学校に入学しました。右の絵は「芋畑に逃げ込む朝鮮人」、小学生が描いたものです（高麗博物館HP）。

1925年 福岡神学校を卒業
1932年 桃谷講義所開設
 (東桃谷町3丁目 = 当時)
1941年12月8日 張師、逮捕
 6ヵ月にわたる拘留と拷問
1942年 礼拝・集会禁止、教会閉鎖
1945年8月15日 日本敗戦、朝鮮解放
1954年 張師、自宅を開放し教会活動を再開
1956年 司祭按手
1966年11月4日 逝去 (66歳)



5

1925年、張準相師は福岡神学校を卒業し、堺聖テモテ教会に勤務、同時に在日朝鮮人に対する宣教活動を開始しました。これが聖公会生野センターのルーツです。

1941年、真珠湾攻撃の日、張師は特高に逮捕されました。日本の「国体」に逆らう危険分子という容疑です。面会に行った長女・張聖子さんの証言。

「その時の父の姿は、髪の毛がむしり取られて血がにじみ、頬は紫色になっており、拷問を受けたことは明らかでした。」

日本敗戦、朝鮮解放の後、張師は自宅を開放して教会活動を再開。日曜学校のクリスマスには200人も集まったことがあるそうです。

ヘブライ人への手紙13：3

「自分も一緒に捕らわれているつもりで、
牢に捕らわれている人たちを思いやり、
また、自分も体を持って生きているので
すから、虐待されている人たちのことを
思いやりなさい。」



6

多くの困難を克服して働いてこられた張先生。
思いやりの溢れる司祭姿。これは大阪聖愛教会での
集合写真の一部です。

この写真を見ると思い浮かぶのが「ヘブライ人への
手紙」13章3節です。

捕らえられ、虐待された——張先生とイエスが重
なってきます。

「虐待されている人たちのことを思いやりなさい」
私たちへの呼びかけを聞きます。

虐げの現実——過去だけではありません。

ウトロ（京都府宇治市）放火事件 2021年8月30日

判決 2022年8月30日 懲役 4年



7

ウトロはかつての京都飛行場の跡地、在日コリアンの集住地域です。

私はちょうど2週間前にウトロ平和祈念館に行き、放火現場も見ました。倉庫や住宅7棟が全半焼。

「自分の体が燃やされたよう」

「次は自分がターゲットになるのでは……」

民族差別によるヘイトクライムの最悪の現実です。



ウトロに住んでいた在日コリアン1世の女性(右、故人)と具良鈺弁護士。

(47NEWS)

8

放火により消失した看板のひとつ

「ウトロで生きてきた、ウトロで死ぬ」

ここで生きることへの強い決意が伝わってきます。

写真は以下のサイトから

<https://nordot.app/881738925181091840?c=39546741839462401>

2014年5月30日

日本聖公会第61（定期）総会 第25号決議

「ヘイトクライム（人種・民族憎悪犯罪）、ヘイトスピーチ（人種差別・排外表現）の根絶と真の多民族・多文化共生社会の創造を求める日本聖公会の立場」を採択する件

ヘイトスピーチ、
ヘイトクライム
に抗して

提出者		
大阪教区	主教議員	主教 大西修（人権問題担当主教）
	聖職代議員	司祭 岩城健、司祭 山本真
京都教区	主教議員	主教 高地敬
	聖職代議員	司祭 黒田祐、司祭 井田泉
東京教区	主教議員	主教 大塚喜道
	聖職代議員	司祭 佐森田鶴
	信徒代議員	黒澤士子
正義と平和委員会		主教 酒澤一雄
青年委員会		司祭 小林聡

以下の声明を、総会において採択する。

「ヘイトクライム（人種・民族憎悪犯罪）、ヘイトスピーチ（人種差別・排外表現）の根絶と真の多民族多文化共生社会の創造を求める日本聖公会の立場」

2000年代後半に入り「行動する保守」をスローガンに「在日特種を許さない市民の会」（略称：在特会、2007年結成）をはじめとする民族排外主義団体は、街頭に出て聞くにも堪えない民族排外表現を内容とする示威運動を続けています。2009年12月には授業中の京都朝鮮初級学校を襲撃し、これらから育っていく子どもたちだけでなく学校関係者、地域社会に大きな傷を与えました。この事件を契機に日本社会でもヘイトスピーチという言葉が認知されてきています。

明治以降の植民地主義・軍国主義による日本のアジア侵略と植民地支配はその反省が不十分であり、かつ植民地出身者、とりわけ朝鮮半島出身者とその子弟には同化と排外政策でもって権利が侵害されてきた状況があります。そのことは現在の在日韓国朝鮮人問題の起源と言っても過言ではありません。

https://www.nskk.org/province/sei_mei_pdf/hatespeech140605.pdf

日本聖公会は2014年（8年前）の総会で「ヘイトクライム（人種・民族憎悪犯罪）、ヘイトスピーチ（人種差別・排外表現）の根絶と真の多民族・多文化共生社会の創造を求める日本聖公会の立場」を採択する決議を行いました。これは今日の日本における福音の宣言であり信仰の告白です。

この決議は聖公会生野センターの存在と働きがなければ成立しなかったと思います。

同年2月、京都教区教役者学習会での呉光現さんによる講演「ヘイトスピーチについて」の結び。

「預言者としての教会が今こそ問われている。ヘイトというものが反福音的であり、反聖書的であるという聖書理解、教会活動、神学的営みを……」

むすび——本日の福音書から

朗読者 聖ヨハネによる福音書第17章14節以下に記された主イエス・キリストの福音。主に栄光

会衆 主に栄光がありますように

14 わたしは彼らに御言葉を伝えましたが、世は彼らを憎みました。わたしが世に属していないように、彼らも世に属していないからです。15 わたしがお願いするのは、彼らを世から取り去ることではなく、悪い者から守ってくださることです。16 わたしが世に属していないように、彼らも世に属していないのです。17 真理によって、彼らを聖なる者としてください。あなたの御言葉は真理です。18 わたしを世にお遣わしになったように、わたしも彼らを世に遣わしました。19 彼らのために、わたしは自分自身をささげます。彼らも、真理によってささげられた者

今日の聖公会生野センター30周年記念感謝礼拝で朗読された福音書。最後の晩餐での主イエスの祈りの一節です。

「世は彼らを憎みました」は英語では“the world has **hated** them”です。

- ① イエスはヘイトにさらされ、弟子たちもヘイトにさらされました。
- ② イエスは世から攻撃されている弟子たちを世から取り去ることではなく、悪い者から守ってくださるようと、神に祈られました。
- ③ イエスは弟子たちを、ヘイトを乗り越えて歩み働くように弟子たちを派遣されます。

「聖公会生野センター ミッション・ステイトメント 2022」

- ① わたしたちは、小さくされた人々、弱くさせられている人々の声を聴きます。
- ② わたしたちは、イエス・キリストの愛に倣い、共に生きる新しい社会を目指します。
- ③ わたしたちは、差別、抑圧、戦争を無くすために働きます。
- ④ わたしたちは、多民族、多文化にある人々とつながって生きていきます。
- ⑤ わたしたちは、痛みを背負わされてきた人々と共に歩むイエス・キリストの十字架を共に背負います。

11

このステイトメントにこめられた聖公会生野センターの決意を私たちも受けとめて、これからのセンターの歩みと働きに連なっていきたいと願います。